

年間第 2 5 主日の説教

金 大烈 神父 2009 年 9 月 20 日 (日)

《 “知恵” と共にある “選び” 》

おはようございます。

皆様、知恵はどこからくるのでしょうか。“知恵”という名前をもった赤ちゃんは沢山いますが、その名前はお母さんのお腹の中からくるのでしょうか。第 2 朗読 (ヤコブ 3・16~4・3) をもう一度読んでみましょう。『上から出た知恵は、何よりもまず、純真で、更に、温和で、優しく、従順なものです。憐れみと良い実に満ちています。偏見はなく、偽善的でもありません。』大体において、錯覚する事があります。知恵は自分の知識によって出るものだと、私達は思っているところがあります。

はっきり区別して申し上げます。人間の能力によって、他から色々と得て自分の頭に入れるものを“知識”と言います。しかし“知恵”というものは、神様が許して下さらなければ、得られないものです。

それでは、“知識”と“知恵”の差は何でしょうか。“知恵”はまず、温かくて、何が正しく何が間違っているかを識別する力です。どうすれば一番自分らしくなるのかを教えるのが“知恵”です。では、“知識”は何でしょうか。“ $1+1=2$ ”である、その枠に合わせ、全ての事を考える事を“知識”と言います。“知識”は冷たいものです。冷静です。自分の“知識”に合わなければ、それに対して反抗する心が生じます。“知識”は環境や条件によって、上手く自分のものとする人もいれば、そう出来ない人もいます。しかし、人間らしさや人間らしい香りがするかどうかは“知識”とは全然関係ありません。“知恵”がある人が「良い人」だと言われるのです。文盲でも笑顔の素晴らしい老女に、私達の心は溶けます。何もいりません、その方の笑顔を見て、その人がどんな人生を送っているのかすぐ解ります。そして自分も癒されます。これが“知恵”です。

皆様、私達は何が正しいか、何が正しくないかを識別しながら生きて行くのが人生の意味だと思います。その意味をはっきり把握する為には、何よりも私達は“知恵”を求めなければなりません。その知恵は誰に求めますか。『上から出る』ものだから、神様に願うべきです。祈りと共に「あなたが教えて下さった道を、感謝の内に歩めるように“知恵”を与えて下さい」と願います。そしてその実りとして、今日の第 2 朗読、使徒ヤコブを通して言われた美しい言葉、『純真で、更に、温和で、優しく、従順なものです。憐れみと良い実に満ちています。』この様な私達になる為に“知恵”を求めなければなりません。“知恵”はインターネットや本やテレビで得られるものではないと言う事を意識しましょう。

さあ、今日の福音 (マルコ 9・30-37) に入ってみましょう。今日の福音を考えてみますと、弟子達の心の働き、心理が良く書かれ、説明されています。イエス様はご自分の事について、『人の子は、人々の手に引き渡され、殺される。殺されて三日の後に復活する』と話し、それを聞いた弟子達は『何も尋ねなかった』と書かれています。何故ですか？『怖くて』です。意味は分からなかったのですが『怖くて』尋ねる事が出来なかったのです。

弟子達のこの心の働きを理解する為に、ちょっと想像してみましょう。弟子達は自分が付いて行きたくて集まった者達ではありません。イエス様の時代は、ある立派な先生がいれば、自分を弟子にして下さいと言うのが常識でした。今の時代も同じです。イエス様と弟子達の関係は、弟子達がイエス様の所に行き頼んで弟子にしてもらった訳ではなく、イエス様が“選び”ました。『これから私に付いて来なさい。人を捕る漁師になりなさい』という言葉に従い、自分達が生活の糧としていた仕事を全

部捨てて、イエス様に付いていったのです。

現実的に考えてみましょう。その人に対して抵抗の出来ない様なカリスマを持っている人が、「私に付いて来なさい」と言ったら、皆様はどんな反応を示すでしょうか。「持っているものを全て捨てて付いて来なさい」と言われたら、皆様はどの様な気持ちになりますか。とんでも無い事でしょう。しかし、弟子達は全てを捨ててイエス様に付いて行ったのです。弟子達は「この方は特別な方で、この世の中の救い主として来られたから、この方はきっと高い位置から人を支配する人だ」というイメージで満たされたのでしょうか。しかし、ある日突然、『私は人々に引き渡され、殺される』と告げられた弟子達の気持ちはどんなものでしょうか。「この人は何だ、何の為に私はこの人に付いて来たのか」、その様な弟子達の心を皆様は理解出来ますよね。

ですから、彼等はイエス様の言葉を“わざと”聞こうともしませんでした。彼等は十字架の道を歩まれたイエス様を見ても、イエス様の御言葉を信じられませんでした。何故なら、自分が付いて来た事が全て空しく思えたからです。結局、彼等はいつイエス様の御言葉を認めましたか。それは復活の出来事と、聖霊の降臨によって「あの方のおっしゃった事はこの事だった」と悟り始めるのです。

2番目の事を考えてみましょう。『途中で何を議論していたのか』とイエス様が尋ねますが、彼等は黙っています。何故なら『だれが一番偉いかと議論し合っていた』から恥ずかしかったのです。彼等は、イエス様が彼等にどの様な生き方をして欲しいと思っているかを十分に分かって、誰が一番偉い弟子になるかで口争いをしたのです。ですから、イエス様に聞かれた時に恥を感じました。

イエス様は子供を彼等の真ん中に立たせ『この様な子供の一人を受け入れる者は私を受け入れるのである』、『一番先になりたい者は、全ての人の後になり全ての人に仕える者になりなさい。』とおっしゃいます。

この福音を読んで、私は、これは弟子達の心理だけではなく、私達にも当てはまる事だと思いました。もし今、イエス様のような人物が現れて『今持っているものを全て諦めて、祈りの生活に入りなさい』と言われたら、私達はどの様な反応を見せるのでしょうか。「聞きたくない」「他にも沢山いるのに、何故私に」ではないですか。

これが信仰です。前にも申し上げましたが、いつかこの様に“決断”を求められる時が必ず来ます。その時、皆様の選択はどちらになるか、それによって私達の信仰が実を結ぶのか、そうでないかが決まるのだと思います。全てを捨てて、社会的な、世俗的な考え方、価値を捨て「これからは新しい生き方をしよう」という決断です。

皆様に何故、洗礼名を付けるか、洗礼を受ける時に何故、マリアやクララ等付けるかご存じですか。その理由は二つあります。一つはその聖人の取り次ぎを求める事、そして、それよりももっと大事な事は、親からいただいた名前を捨て「信仰の道を歩みます」と新たな覚悟をする事です。「聖人になった人々の模範に倣って、自分も今までの人生を捨て新しい心でこれからを進んで行きます」その様な意味で洗礼名を受けるのです。

洗礼名に自分の祖父の名を使う事は出来ません。聖人、福者の名前をもらう事になっています。皆様が私の事が好きで、私の名“金 大烈”を洗礼名にしたいと思っても出来ません。何故なら、洗礼名として使う為には母である教会が認めた聖なる生き方、聖なる死を見せた聖人とか福者の名にならなくてはいけないからです。

最後に、子供を弟子達の真ん中に立たせて、『この様な子供を受け入れ事は、私を受け入れる事』『私を受け入れる事は、私を使わした御父を受け入れる事』とイエス様はおっしゃいました。この文の中の“子供”が意味するものは何でしょうか。それは“弱い人”“一人では生きて行けない人”です。皆様、いつも弱い人の立場に立っていて下さい。弱い人の為になる生き方をして下さい。それが、自分の生き方が成功する一番の“知恵”だと思います。助けを求めようとする人がいれば、その人を避け

ないで、何とか助けになろうとする心を持って下さい。必ず、葛藤が生じると思います。しかし、それが本物“勝利”になる事を忘れないで下さい。

私達は毎日“選択”ながら生きて行きます。何と何を選ばなければならない。その“選び”が“知恵”と共にある“選び”になるようにお願いします。

ありがとうございました。